

2003年1月23日 小泉純一郎首相

「約束を守らないことは太したことはない」

2003年7月23日

「今イラクのどこが非戦闘地域で、

どこが戦闘地域か、

そんなの私に聞かれたって

わかるわけがないじゃないですか！」

迷言

3連発!

迷言多くも
支持率高し

2004年6月3日

「人生いろいろ、会社もいろいろ、社員もいろいろ」



「約束」は、民主党の菅直人代表から「国債発行額30兆円以下」の達成が01年度と06年度だけと追及されたとき、「今イラク」も菅との党首討論「非戦闘地域の1カ所でも言っただけ」と質問されて、「人生」は岡田克也代表に「生半金に加入しては社会人時代の勤務実態を追及され、本音の答弁で国民の人気をつかた稲佐久議員だった」

2008年1月23日 尾辻秀久議員



好敵手の死を
悼んだ名演説

名言

「バトンを渡しましたよ、たすきを
つなぐようにしっかりと引き継いでください。
そう言う山本先生の声が聞こえてまいります。
先生、今日は外は雪です。
随分やせておられましたから、
寒くありませんか。
…あなたは参議院の誇りであります。
社会保障の良心でした」

06年6月に成立した「がん対策基本法」に尽力した民主党の山本孝史参議院議員(07年12月22日胸腺ガングにより死去)への追悼演説。国会論戦を通じて親交があった尾辻議員を山本が生前に指名。遺族が直立するなか、自らカンパを告げた山本の演説を引用し、与野党の垣根を越えて共唱した過程を語った。「最も手ごわい政策論争の相手であった」故人を偲んだ尾辻は涙ながら演説をした。

国会の追及及女が語る
「論戦はライブだ」

テレビの討論番組は木刀での殴りあい。国会での論戦は真剣での斬りあい、と辻元氏は表現する。「質問一つで内閣が倒れることもある。私は社民党という小政党で、質問時間は10分ぐらい。真剣じゃなく吹き矢(笑)。でも、くノ一じゃないけど、急所を突こうとは思っています」。国会での発言は、政治家人生を変える。辻元氏自身、2つの大きな体験をした。

「99年、日米ガイドライン関連法案の特別委員会で連日質問に立っただけです。当時の野中広務官房長官が私のところに来て、「お見事でした」と。そこからいろいろお話しできるようになったんです」

もう一つ、辻元氏がブレイクしたのが01年、小泉総理に「ソーリー! ソーリー!」と食いついた場面だ。「国会中継の視聴率が13割ぐらい。よくも悪くも政治家人生が変わりましたね。みんなに知ってもらえたのはプラスですが、いつも、キーキー言っていると思われる。いまでも電車で乗ると、「あのソーリー! ソーリー! の人だ」なんて(笑)。でも何の質問をしたか覚えていない人はいないんです。小泉構造改革が生んだ格差と集団的自衛権に関する認識を問うたんですけどね」。



辻元清美衆議院議員

60年4月28日に奈良県に生まれる。当選回数4回。10年5月に国土交通副大臣を辞任した後、7月に社民党を離党。月から民主党・無所属クラブに所属

「答弁者」としておもしろいと思うのは与謝野馨氏。「質問者」として凄みを感じたのは、野中広務氏という。与謝野氏は紙を持たないと言っていましたね。野党時代の野中さんは細川総理のスクヤングルを追及し、流れを変えましたから」。安全保障委員会での石破茂防衛大臣との論戦も記憶に残る。「ある人から聞いたんですけど、石破さんが『誰の質問の前に緊張するか』と聞かれて『辻元』と。質問する側としてはうれしい。それは自分の言葉で質問するからだと思っています」。国会論戦はライブ。議員が自らの言葉で語り、議員立法をお互いに出し合い、戦わせたとき、もっとも活性化する。「熟議の国会って本当に難しい。でも今の国会の状況に懸念を感じている人は党派を超えている。そういう人たちのネットワークを作って、国会の空気、文化を変えなきゃいかんと思っています」